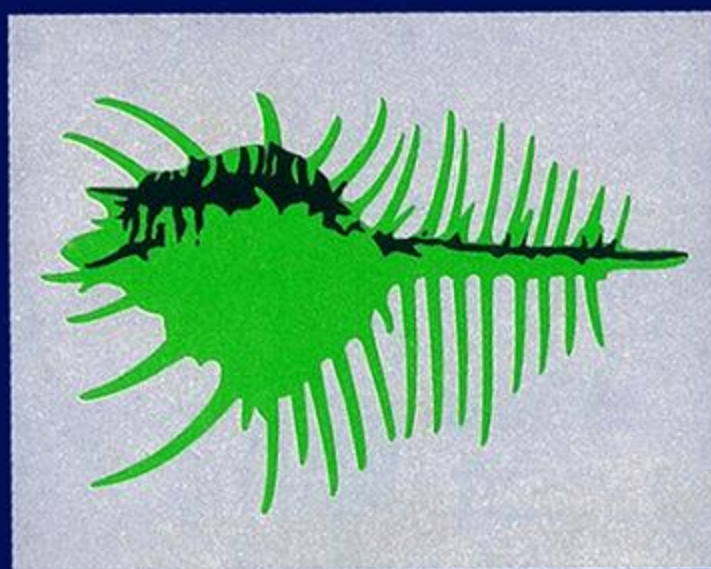


PLECTRUM SOCIETY

第11回

マンドリン コンサート



とき・昭和43年8月10日(土)PM6・30開演
ところ・岩国市体育館

主催・岩高プレクトラム・ソサエティ

後援・岩国市教育委員会

室内装飾専門店

柳屋

岩国駅前アーケード街

TEL 210394・6748

岩高プレクトラムソサエティ

第 11 回 定 期 演 奏 会

1968. 8.10. PM. 6:30

岩 国 市 体 育 館



燭 涼 し

村 井 一 露

汗とこぼる涙を友は拭ひ得ず

(吉田矢健治氏国病を訪う)

燭涼し神にゆだねし友の魂^{たま}

不帰の友睡蓮一と夜雨と呼ぶ

日 盛 り を

木 か げ

逝 き ま せ 夏 の 旅

母・隆 子

会 長 挨拶

立秋もすぎ、朝夕どことなく秋の気配も感ぜられるようになってまいりました今宵、皆様多数の御来場をいただきまして、ここに第11回定期演奏会を盛大に開催できましたことを、私達演奏者一同心から感謝いたしております。

平素各自の仕事の余暇を見て、練習に励み、ここに一年間の成果を皆様方にお聞きいただけることにこの上ない喜びを感じております。

さて、このたび私共の恩師であり何かとご指導ご援助を賜わって居りました熊谷幹雄先生がご逝去になり、私共一同心の支柱を失い思案に暮れております。しかし、この悲境をのり越えて、先生の情熱を引継いでこの会を発展させて行くことが、先生のご冥福を祈ることと存じます。本日は初めに追悼曲を演奏させていただき、先生の残された偉学に恥じない演奏を致したいと思っております。どうか最後までごゆっくりお聴き下さって、明日への新しい希望と勇気をおみやげにお持ち帰り下さいませ。

末筆ながら、平素御援助いただいております岩国市教育委員会、また常に変わらぬ同好の方々の御好意に厚く御礼申し上げます。

岩高プレクトラム・ソサエティ会長

富 沢 元 生

幹 事 挨拶

岩高プレクトラム・ソサエティについて

皆様、本日はよくおいで下さいました。皆様方のあたたかい御支援により、ここに第11回定期演奏会として日頃の精進の成果を発表できますことを部員一同心より感謝しております。私達岩国高校プレクトラムアンサンブルの卒業生は、高校時代故熊谷先生からおそわった、マンドリン、ギターを通しての合奏の楽しさを、高校時代かぎりで終らせたのでは余りにもったいないという気持ちから11年前卒業生だけで岩高プレクトラム・ソサエティというサークルを創り、高校時代に体得した心のハーモニーで結ばれた人間関係と、そこから自己の人間性の向上を図ることを土台にして、プレクトラム音楽のもつ無限の芸術性を追究しております。すなわち、合奏においては、他人と協調しなければならないという規制がありますが、その中で自己の性格をいかに生かすかが大きな課題になってきます。オーケストラの個々のパートの個々の楽器が独特の音を保ちながら、全体として一つのムードを作り上げること、そしていたずらにリリカルな感情を強調して、その曲の表現範囲を限定してしまうのではなく、感情以上のものをもってその曲の芸術性に本当の生命を与えなければならない。そういう大きな目標のもとに私達は仕事の余暇を見つけ週一回（土曜日）市中央公民館に集まり、（本年2月～6月の5ヶ月間、市職員会館においても……火曜日）厳しい練習を積み重ねながら毎年夏に定期演奏会をもち、その年の成果を発表しているわけです。

現在メンバーは250名を越え、東京、関西、九州にも支部をおき密接な連絡を保ちながら活動を続けております。

尚、本年も一昨年、昨年に引き続き純益を母校のクラブへ寄附しようという目的のため、有料で皆様に聴いていただくことにいたしました。

まだ歴史も浅く、つたない技術ではございますが、着々と活動を行っておりますこのサークルに今後共、同じ岩国市民としての皆様の暖い御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

幹事 和久本 忠 史 [40年卒]

ヤマハ特約店

(ピアノ・オルガン・エレクトーン)

各種楽器各科レコード

河 村 楽 器 店

岩国駅前本店 TEL 21-1808

西岩国新町支店 TEL 41-0262



ムラコシのパン!!

村越製パン工場

岩国市今津町

電話 21 - 1335

PROGRAM

第 1 部

序 曲 嬰 へ 短 調K・ヴェルキー作曲

愛 の 喜 びマルティーニ作曲

「荒城の月」を主題とせる

二つのマンダリンの為の変奏曲服 部 正作曲

マンダリンⅠ 山 添 修 志

マンダリンⅡ 新 井 義 悠

第 2 部

序 曲 聖・ジュストN. I. ビテリー作曲

孤 独T・コスタット作曲
ベルレンギ編曲

幻 想 曲 イ 短 調高 島 信 人作曲

PROGRAM

第 3 部 軽 音 楽

夢のタンゴ

真珠採りのタンゴ

タンゴアルヘンタ

エルチョクロ

マンボ No.5

黒い瞳のマンボ

闘牛士のマンボ

第 4 部

組 曲 「山 の 印 象」鈴木 静 一作曲

序 曲 過 去 へ の 憧 憬フォクト 作曲

曲 目 解 説

序 曲 「嬰 へ 短 調」

K.ヴェルキー 作曲

近代ドイツ作曲家ベルリン生れのコンラッド・ヴェルキーはマンドリン音楽の為に数々のすぐれた作品を書いたが、その代表作であり、多くのマンドリニストに最も親しまれているものとして彼の五つの序曲がある。嬰へ短調はその第二番である。曲は4分の3拍子の壮重なアンダンテの序奏に始まり、次に4分の4拍子アレグロでは、低音部の軽快なリズムの刻みにのったこの曲のテーマが序々に激しく歌い上げられてゆく。中間部はおどけた調子の旋律が現われるが再びもとのテーマが現われコーダに入って、より激しく力強いビューモソツで終る。

愛 の 喜 び

マルティーニ 作曲

イタリア歌曲、そして声楽曲として余りにも有名な曲である。作曲者は長い間、著名な音楽理論家、デッヴュー・パッティスタ・マルティーニであると思われていたが、最近マルティーニ・イル・テテスコの作であることが明らかになった。彼は1741年フライタルタットに生まれたドイツ人であるが、10才の頃から、オルガニストをつとめ1756年、ナンジーに移った。そして音楽家として、多岐、多端な生活を送り、1816年パリに没した。多数の作品を残したが、しかし彼の名を不朽にしたのは、何と言ってもこの歌曲であると言ってもいいくらいであろう。小品ながらクラシックの香り高い美しい和声の動きを示している。

マンドリンオーケストラへの編曲は、マリオ、マチョッキであるが、不当な個所があり堀清隆氏により改編された。

孤 独

T.コスタット 作曲
ベルレンギ 編曲

作曲者のT.Koschatは1845年にオーストリアで生まれたバス歌手である。

多くの教会の合唱団で歌ったり、自分でも合唱団を組織したりしていたが、後に作曲を志した。彼の作った曲は当時大流行したと伝えられている。

編曲者のベルレンギは1847年、イタリアのポローニャ近郊ファエンツェに生れ1902年、フィレンツェに逝いた初期マンドリン界における巨星である。初めチェロをよくし、フィレンツェ王立音楽学校でチェロ教授となったが、後、マンドリンにほれこみ、チェロを手放して彼の芸術的生涯、生活をマンドリンの普及に費やした。マンドリン奏者としてはフィレンツェ及びポローニャを中心に各地演奏会を開き、楽曲の出版、教則本の発行、ギター、マンドリン曲の編曲等に目覚ましい活動をした。彼の作品は当時の俗曲を反映しながらも、優雅な感情と美しい旋律を持っており、それが直接マンドリン音楽普及に大いに役立ったとも言えよう。

彼の作品は最初Ricordiから出版されたが、1882年妻の名をとって創設した出版社、Forlivesiを興し、マンドリン曲を多数出版し今なお子孫によって受けつがれている。

YAMAHA 専門の楽器店

淵 田 楽 器 店

信用あるヤマハのピアノ・オルガン・エレクトーン
管楽器・弦楽器をノ調律修理も当店で。

岩国市今津町1丁目(1番町)

TEL ②1 - 2462
②1 - 2510

くすり・カネボウ化粧品

賀 屋 薬 局

岩国市麻里布町三丁目12の10

TEL ②1 - 0465

幻想曲イ短調

悪い夢を見た 錯覚ではない 高島 信人 作曲
 確かに聞いた どん底にいる人間の苦痛の叫び
 今も——夢からさめた今も この耳に残る……。
 標題の詩が示す通り、全体的に暗鬱なムードに包まれた曲である。構成はA-B-Aの三部形式。

イ短調、6/8拍子。

曲はまず、冒頭から低音弦に無気味なしかも厭世的な第1主題が現れ、次第に高音弦へと受け継がれてゆく。次にギターのリズムにのせて、多分に幻想的な第2主題がマンドラによって奏せられる。それが繰り返された後、曲は一変して、アレグロヴィヴァチェの急速なテンポとなり、最高の盛り上がりを見せる。コーダでは第1マンドリンが第1主題の断片を回想した後、再び6/8拍子のテンポにもどり、全楽器が最強奏で第1主題を奏し、あたかも苦痛の叫びのように、第3音を欠いた空虚な5度で全曲を閉じる。結論のない結論——ここに作者の意図がある。この曲は単に夢の中の出来ごとを描写したにとどまらず、作者の音楽に対する素直な情熱と愛着が感じられる。

組曲「山の印象」

鈴木 静一 作曲

鈴木静一の処女作で極めて叙情的な雰囲気を持った美しい曲である。
 曲は三つの楽章に分けられており、各々の楽章に標題が附されている。

- 第一楽章 未明と朝
- 第二楽章 高原の午後
- 第三楽章 麓を指して

第一楽章は未明の山麓にやがて訪れる朝の神秘的な様が、又、第二楽章では山の美しさに触れた卒直な感動が牧歌的に歌われている。終楽章は鈴の音も軽く麓を指して山を下る時の様が描写されており、印象的な主題をくり返しつつ華麗なフィナーレを迎える。この曲には全楽章を通じて作者の鋭い感受性とロマンチズムが遺憾なく発揮されており、特に細部にわたる美しい旋律が作者の自然に対する愛情と憧憬とを感じさせる。

序曲「過去への憧憬」

フォクト 作曲

作者はスイスのイベルドンの音楽教授。今世紀初期の音楽を発展させた功労者であって、たびたび作曲コンクールに入賞している人である。およそマンドリンオーケストラ曲の中では序曲に多くの優れた作品が見出されるが、この序曲も非常に人気のある佳曲なのである。しかし、この曲もフォームの上より見れば幾多の難点が見出され、フォームよりの美に乏しいように感じられる。

それにも拘らず、我が国はもとよりイタリア、フランス等に於て競演会の課題曲として又、随意曲として、あるいは演奏会曲にと、たびたび演奏され、他の序曲に比して、その回数が多いことは一見、不思議に思われるが、メカニズムの比較的容易なのはさて置いても、イタリア風の旋律のうるわしさと、インスツルメンテーションの秀れていることが、その一因をなしていることは明らかである。1910年、イル・ブレットロ社主催による第三回作曲コンクールに於て金賞碑を獲得した名序曲である。

写 真 機 ・ 材 料

株式
会社

リリー写真機店

今津一番町商店街
TEL 21-1038

あなたの美を創る店



ぎんべろ

岩国グリーン街
TEL 21-0579

MEMBERS

コンダクター 高島 信人
山添 修志

コンサートマスター 山添 修志
司会 田中 克佳 (RCC)

1st Mandolin

山添 修志
新井 義悠
藤沢 幸昌
広田 永美
富江 祐子
大藤 恵子
十本 匡孝
岡時 操
富永 子
好本 江
森脇 代

藤村 文子
高木 光子
高田 美知子

藤中 愛子
吉岡 智子
白木 恵子
河岡 二雄
藤井 聡子
蛭森 忠行
森中 清悦
荒井 真香
三崎 真香
広本 兼代
本兼 孝敏

Mandola Tenor

富永 勝之
山中山 士雄
和久本 史
藤室 明
小平西 子
岩井 子
田見 子
高山 中
木根 充
進 広

Contra Basso

吉岡 光 則
角野 坂 茂 美
野坂 利 雄

2nd Mandolin

守田 史郎
富沢 元生
大屋 光子
松本 糸代
山田 美恵子
小瀬 義行
岡村 則夫
村部 みつみ
河越 江美子
山添 邦安子
錫口 光枝子
金本地 さよ子
川村 江美子

Mando Cello

穂鹿 恭悦
村上 茂
善岡 宏
山山 根 彦
山根 広

Fluto

松本 道子

Guitar

熊沢 偉全
藤中 英機
村中 弘幸
森脇 祥文
安原 政男

会長 富山 高和 山十中
幹事 沢添 島久本 根時原
元修 信忠 義和悦
生志 人史 広子

おかし

あさを

岩国新町 TEL 41-0995

ステレオ音楽喫茶



音楽とサンドウイッチパーラー

純喫茶 **コナ**

駅前 TEL ②1 0552

和装美のポイント

お履物 **千里**

岩国駅前電話 ②1 1635

コーラは
ペプシ



カワイ

{ ピアノ
オルガン

Ⓚ株式会社 河合楽器製作所
岩国営業所

岩国市麻里布町3丁目
岩国大映前

レジャースポーツのボウリングをどうぞ

岩国ボウリングセンター

岩国市麻里布町7丁目1番地 TEL ②1 5400

紳士服なら男の格調を創る



岩国大丸

岩国本通り(駅前アーケード街)

TEL (21) 3158(代)